国語

（60分）

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かず、
左記の注意事項をよく読むこと。

注意事項

1、問題冊子は、20ページまであります。
2、解答用紙は問題冊子の中央にはさんでいます。解答はすべて、解答用紙に書き込みなさい。
3、始め、の合図でページ数を確認し、受験番号・名前を書きなさい。
4、問題の内容についての質問には、いっさい応じません。印刷のはっきりしないところがあれば、静かに手をあげなさい。
5、時間を知りたいときも、静かに手をあげなさい。
6、具合が悪くなったり、トイレに行きたいときは、手をあげて監督の先生の指示に従って行動しなさい。
7、問題冊子は、各自持ち帰ってよろしい。

国語
3

一　次の文章を読み、後の問いに答えなさい。なお、字数制限のある問いは、記号や句読点も字数として数えます。

「①彼女は戦うために生まれてきた。
彼女は戦士なのである。
彼女は戦うために生まれてきた。
そして戦うことに生き、戦って死んでいく。それが彼女に与えられた宿命なのである」

②映画であれば、この物語はこんなナレーションから始まるのだろうか。

彼女は、兵隊アブラムシである。「彼女」と呼ぶのは、すべての兵隊アブラムシがメスだからである。

兵隊アブラムシというのは、アブラムシの種類のことではない。

アリやシロアリの中には、兵隊アリと呼ばれる巣を守るための戦闘用の働きアリがいることが知られている。兵隊アブラムシもそれと同じである。アブラムシの中にもアリやシロアリと同じように集団を作って暮らしているものがあり、その中には兵隊アリのような戦闘用の個体を持つものがいるのである。この戦闘用の個体が、兵隊アブラムシと呼ばれている。兵隊アブラムシは、戦うために生み出されるのである。

〈a〉

アブラムシの仲間は四〇〇〇種以上が知られているが、そのうち五〇種程度が、兵隊アブラムシという階級を持つことが知られている。

それにしても兵隊アブラムシは、③数奇な運命を背負わされた存在である。

アリやシロアリの兵隊アリは、幼いときには他の働きアリと同じように育てられ、成虫になったときに兵隊として役割を果

たす。

しかし、兵隊アブラムシは、そうではない。彼女たちは生まれながらにして戦うことのできる兵士である。彼女たちには、生まれたときから武器が与えられている。それが、厚い皮膚も貫く鋭い口針である。針には、毒が仕込まれていて、この口針で刺せば、敵を倒すことができるのだ。こうして、彼女たちはアブラムシを餌にする天敵の昆虫から群れを守るのである。

それだけではない。彼女たちのすべては、少女兵である。普通のアブラムシは卵から生まれた*一齢幼虫から脱皮を繰り返し、やがて成虫となる。ところが、兵隊アブラムシは、生まれたばかりの一齢幼虫のまま成長することはない。成長の仕組みが備わっていないのだ。

昆虫にとって「成虫」とは、子孫を残すための繁殖の世代である。兵隊アブラムシに与えられた［ i ］は、他のアブラムシを守ることである。戦うために生まれてきた彼女たちは子孫を産む必要もなければ、成長する必要さえないのだ。

そのため、彼女たちは幼虫のまま戦い続け、幼虫のまま死んでいく。彼女たちは幼き少女兵として、常に最前線で*特攻を繰り返す［ ii ］にあるのである。

〈b〉

一般的なアブラムシの寿命は一カ月程度である。アブラムシを狙う天敵は多い。危険な戦いを強いられる兵隊アブラムシの寿命は明らかではないが、寿命を全うできる兵士は多くはないことだろう。

*スター・ウォーズなどのSF映画では、*クローンで量産されたクローン兵が登場するが、驚くべきことに兵隊アブラムシは、現実に存在するクローン兵である。

アブラムシのメスは、自らと同じ遺伝子を持ったクローンの子どもを産むことができる。こうして生まれた幼虫のうち、あるものは普通のアブラムシとして生まれて、成虫へと成長を遂げる。そしてあるものは戦闘用の兵士として産み落とされるの

である。

同じ遺伝子を引き継ぐ姉妹でありながら、一方は生まれながらにして兵士として戦う宿命を背負っているのである。

〈c〉

クローンは、遺伝的には同じ性質を持つコピーであり、親の分身でもある。

同じクローンとして生まれながら、親を守るための兵士として生まれてくる幼虫たち。そして、彼女たちは成長することなく幼虫のまま死んでいくのである。何という悲しい定めなのだろう。

アブラムシは昆虫の中でも弱い存在である。シジミチョウやクサカゲロウの幼虫、テントウムシなどアブラムシを餌にする昆虫は多い。どんなに数を産み増やしても、次々に食べられるだけである。

しかし、兵隊アブラムシたちが身を犠牲にして戦えば、仲間の命を救うことができる。自らは子孫を産むことはできなくても、同じ遺伝子を持つ仲間の命を守ることができれば、それは自らの遺伝子を残したことになる。

〈d〉

同じ遺伝子を持つクローンでありながら、どのようにして戦闘用の幼虫が創り出されるのか、そのメカニズムは未だ謎である。

Ⅰ アブラムシを襲う虫たちは数センチメートルの大きさとはいえ、兵隊アブラムシに比べればずっと大きい。Ⅱ 当然、天敵の虫は暴れ回り、兵隊アブラムシを振り落とそうとする。Ⅲ その大きな虫に、飛びかかり口針を突き刺すのだ。Ⅳ 生まれたばかりの一齢幼虫のまま戦う彼女は、一ミリメートルにも満たないような小さな体である。兵隊アブラムシの戦い方は、あまりに命知らずで、あまりに無謀な戦い方である。

しかし彼女たちにとっては、④戦って死ぬことができれば、本望なのだろう。戦いとは、映画やゲームの世界のようにカッコいいものでもなければ、美しいものでもない。戦いとは、殺し合いだ。命を賭けて殺し合うのだ。それは⑤小さな虫であるアブ

ラムシにとっても同じことである。

〈e〉

集団を守るためだけに生まれてきたと言えば、何とも残酷な感じがするかもしれない。[A]、私たちの体の中でも同じようなことは起こっている。

私たちの体はもともと、たった一個の受精卵だった。[B]単細胞生物だったのである。このたった一個の細胞が細胞分裂を繰り返し、さまざまな器官を作り上げてきた。そして、六〇兆個とも言える細胞が、分業しながら一つの生命体を形作っているのである。

[C]、血液中の白血球は、体内に侵入した細菌やウイルスを自らの体の中に取り込んで殺してしまう。[D]自らもやがて死んでいくのである。白血球は、私たちの数ある細胞の中で、戦うために生まれてきた防御細胞なのである。傷口に生じる膿は、戦い死んでいった白血球の残骸でもある。

白血球は、そういう役割のものなのだと思うかもしれないが、白血球はものではない。他の細胞と同じように、生きている一つの細胞である。そして、私たちのはじまりが受精卵という一個の細胞だったとすれば、戦い死んでいく白血球もまた、私たちの分身であるとも言えるのだ。

私たちの体の中では、白血球に守られながら、他の細胞はのうのうと生き延び、私たちの体も健康に保たれる。

そして、アブラムシの世界では、兵隊アブラムシに守られながら、アブラムシの＊コロニーは平和に保たれる。

⑥生命は尊く、かくのごとく残酷なのである。

（稲垣栄洋『生き物の死にざま』所収「戦うために生まれてきた永遠の幼虫　兵隊アブラムシ」）

（注）

＊一齢幼虫……卵から孵化（ふか）したままの姿の幼虫。脱皮のたびに二齢、三齢へと変化する。

＊特攻……特別攻撃の略。第二次世界大戦末期に日本軍がとった、体当たり攻撃をさす。

＊スター・ウォーズ……一九七七年から現代まで続くアメリカの映画シリーズ。宇宙戦争を描（えが）く。

＊クローン……クローン技術のこと。もとの細胞と同一の遺伝子を持つ個体群を生み出す技術。

＊コロニー……集団居住地。

問1　傍線（ぼうせん）部①「彼女」とは何者ですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　集団を作って暮らしているアブラムシ。

イ　兵隊アブラムシという種類のアブラムシ。

ウ　兵士となる幼虫を生むメスのアブラムシ。

エ　他よりも高い階級に属するアブラムシ。

オ　戦うことに適した形態を持つアブラムシ。

問2　傍線部②「映画であれば」とありますが、ここでいう「映画」とはどのようなものですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　感情にうったえかけるもの
イ　おもしろおかしく語るもの
ウ　偏見（へんけん）を取り去って描くもの
エ　さまざまな見解を示すもの
オ　複雑なドラマを見せるもの

問3　傍線部③「数奇な運命」とありますが、それはどのような「運命」ですか。四十字以内で分かりやすく説明しなさい。

問4　［i］・［ii］に当てはまる語として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　革命　　イ　延命　　ウ　使命　　エ　本命　　オ　宿命

問5　点線部Ⅰ～Ⅳの文を正しい順序に並べ直し、順番に記号で答えなさい。

問6　傍線部④「戦って死ぬことができれば、本望なのであろう」とありますが、それはなぜですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　兵隊アブラムシはクローンによって量産されるので、戦って死んでも同じ個体を次々に生み出すことができるから。
イ　アブラムシのメスはクローンの子どもを産むことによって、自分の遺伝子を次の世代へと伝えることになるから。
ウ　普通のアブラムシと兵隊アブラムシは同じ遺伝子を持つため、状況（じょうきょう）によって役割を入れ替（か）えることができるから。
エ　兵隊アブラムシも普通のアブラムシも同じ親の分身なので、兵隊アブラムシは仲間を守ろうとする意識が強いから。
オ　同じ遺伝子を持つ仲間のアブラムシを守ることで、死んだ兵隊アブラムシも自分の遺伝子を残すことができるから。

問7　傍線部⑤「小さな虫であるアブラムシにとっても同じことである」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　アブラムシは小さな虫だが、天敵と命をかけて戦うことは人間同士の場合と変わらないということ。
イ　アブラムシは小さな虫だが、戦いに命をかける点では体の大きい天敵の場合と変わらないということ。
ウ　アブラムシは小さな虫だが、命を投げ出すことの重大さは他の生き物の場合と変わらないということ。
エ　アブラムシは小さな虫だが、戦って死ぬということは多くの虫たちの場合と変わらないということ。
オ　アブラムシは小さな虫だが、戦死しても本望だと思うのは映画やゲームの場合と変わらないということ。

問8　［A］～［D］にあてはまる語句として適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　だから　　イ　そして　　ウ　たとえば　　エ　つまりは　　オ　しかし

問9　傍線部⑥「かくのごとく残酷なのである」とありますが、どのようなところが残酷なのか、四〇字以内で説明しなさい。

問10　次の一文は、〈a〉～〈e〉のどの部分に入りますか。最も適切な場所を選び、記号で答えなさい。

そのため、兵隊アブラムシは仲間のために戦うのだ。

問11　本文の表現に関する説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　兵隊アブラムシを「彼女」と呼ぶことで、筆者にとって特別な存在であることを示している。

イ　「四〇〇〇種以上」「六〇兆個」など具体的な数字を挙げることで、文章の説得力を高めている。

ウ　SF映画である「スター・ウォーズ」を紹介することで、戦争の悲惨さを訴えようとしている。

エ　「悲しい定め」などの主観的な表現をおりまぜることで、読者に親しみを感じさせている。

オ　「死んでいった白血球の残骸」などと具体的に描写することで、視覚的に理解を深めている。

二　高校一年生の「僕」（松岡清澄）は刺繍や服作りが好きで、結婚を控えた姉のウェディングドレスを祖母と一緒に縫うことになった。これに続く次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、字数制限のある問いは、記号や句読点も字数として数えます。

昼休みの教室には、机をくっつけたいくつもの島ができていた。大陸と呼びたいような大所帯もある。中学の給食の時間とは違う。めいめい仲の良い相手と昼食をともにすることができる。

入学式から半月以上過ぎた。僕は教卓の近くの、机みっつぶんの島にいる。宮多を中心とする、五人組のグループだ。

宮多たちは、にゃんこなんとかという僕の知らないスマホゲームの話で盛り上がっている。猫のキャラクターがたくさん出てきて戦うのだという。ゲームをする習慣がないから、意味がよくわからない。さっきからぜんぜん会話に入れない。課金とかログインボーナスという単語が飛び交っている。①もう、相槌すら打てなくなってきた。

祖母の顔を思い出して、懸命に話についていこうとした。だって友だちがいないのは、よくないことなのだ。家族に心配されるようなことなのだから。

「なあ、松岡くんは」

宮多の話す声が、途中で聞こえなくなった。ふいに高杉くるみが視界に入ったから。

世界地図なら、砂粒ほどのサイズで描かれる孤島。そこに彼女はいた。箸でつまんだたまごやきを口に運んでいる。唇の両端が［A］持ち上がった。虚勢を張るわけでもなく、［B］するでもなく、たまごやきを味わっている。その顔を見た瞬間「ごめん」と口走っていた。

「え」

「ごめん。②俺、見たい本あるから席に戻るわ」

［C］口を開ける宮多たちに、背を向ける。

図書室で借りた、世界各国の民族衣装に施された刺繍を集めた本を開く。宮多たちがこの本に興味を示すとは到底思え

ない。わかってもらえるわけがない。ほんとうは『明治の刺繍絵画名品集』という大きな図録がよかった。残念ながらそちらは貸出禁止になっていたのだ。どのように糸を重ねてあるか、食い入るように眺める。ここはこうなって、こうなってて。勝手に指が動く。

D 顔を上げると、近くにいた数名がこっちを見ていた。男女混合の四人グループのうちのひとりが僕の手つきを真似て、くすくす笑っている。

「なに？」

自分で思っていたより、大きな声が出た。他の島の生徒たちが気づいて、こちらに注目しているのがわかった。宮多たちも。でももう、あとには引けない。

「なあ、なんか用？」

まさか話しかけられるとは思っていなかったのか、ひとりが E したように目を見開く。その隣の男子が「は？　なんなん」と頬をひきつらせた。

「いや、なんなん？　そっちこそ」

べつに。なあ。うん。彼らはもごもごと言い合い、視線を逸らす。教室に、ざわめきが戻る。遠くで交わされるひそやかなささやきや笑い声が、③耳たぶをちりっと掠めた。

校門を出たところでキヨくん、と呼ばれた。振り返ったその瞬間に、強い風が吹く。

キヨくん。小学校低学年の頃のままに、高杉くるみは僕の名を呼ぶ。当時は僕も彼女を「くるみちゃん」と親しげな感じで呼んでいたのだが、学年が上がるにつれて会話の機会が減り、今ではもうどう呼べばいいのかわからない。

「高杉さん。くるみさん。どっちで呼んだらええかな？」

「どっちでも」

名字が高杉というだけで塾の子らに「晋作」と呼ばれていた時期があって嫌だった、なので晋作でなければ、なんと呼ば

れても構わないらしい。
「*高杉晋作、嫌いなん？」
「嫌いじゃないけど、もうちょい長生きしたいやん」
「なるほど。じゃあ……くるみさん、かな」
歩いていると、グラウンドの野球部やサッカー部の声がどんどん遠くなっていく。今日は世界がうっすらと黄色くて、遠くの山がぼやけて見えた。春はいつもそうだ。すべての輪郭があいまいになる。
「あんまり気にせんほうがええよ。山田くんたちのことは」
「山田って誰？」
僕の手つきを真似て笑っていたのが山田某らしい。
「私らと同じ中学やったで」
「覚えてない」
個性は大事、というようなことを人はよく言うが、学校以上に「個性を尊重すること、伸ばすこと」に向いていない場所は、たぶんない。柴犬の群れに交じった*ナポリタン・マスティフ。あるいは*ポメラニアン。④集団の中でもてはやされる個性なんて、せいぜいその程度のものだ。犬の集団にアヒルが入ってきたら、あつかいに困る。
アヒルはアヒルの群れに交じれば見分けがつかなくなる。その程度のめずらしさであっても、学校ではもてあまされる。浮く。くすくす笑いながら仕草を真似される。
「だいじょうぶ。慣れてるし」
けど、お気遣いありがとう。そう言って隣を見たら、くるみはいなかった。数メートル後方でしゃがんでいる。灰色の石をつまみあげて、しげしげと観察しはじめた。
「なにしてんの？」
「うん、石」

うん、石。ぜんぜん答えになってない。入学式の日に「石が好き」だと言っていたことはもちろんちゃんと覚えていたが、まさか道端の石を拾っているとは思わなかった。

「いつも石拾ってんの？　帰る時に」

「いつもではないよ。だいたい土日にさがしにいく。河原とか、山に」

「土日に？　わざわざ？」

「やすりで磨くの。つるつるのぴかぴかになるまで」

放課後の時間はすべて石の研磨にあてているという。ほんまにきれいになんねんで、と言う頬がかすかに上気している。b

ポケットから取り出して見せられた石は三角のおにぎりのような形状だった。たしかによく磨かれている。触ってもええよ、と言われて、手を伸ばした。指先で、しばらくすべすべとした感触を楽しむ。

「さっき拾った石も磨くの？」

⑤くるみはすこし考えて、これはたぶん磨かへん、と答えた。

「磨かれたくない石もあるから。つるつるのぴかぴかになりたくないってこの石が言うてる」

石には石の意思がある。駄洒落のようなことを真顔で言うが、意味がわからない。

「石の意思、わかんの？」

「わかりたい、といつも思ってる。それに、ぴかぴかしてないときれいやないってわけでもないやんか。ごつごつのざらざらの石のきれいさってあるから。そこは尊重してやらんとな」

じゃあね。その挨拶が⑥あまりに唐突でそっけなかったので、怒ったのかと一瞬焦った。

「キヨくん、まっすぐやろ。私、こっちやから」

川沿いの道を一歩踏み出してから振り返った。ずんずんと前進していくくるみの後ろ姿は、巨大なリュックが移動しているように見えた。

石を磨くのが楽しいという話も、石の意思という話も、よくわからなかった。わからなくて、おもしろい。わからないこと

に触れるということ。似たもの同士で「わかるわかる」と言い合うより、そのほうが楽しい。
ポケットの中でスマートフォンが鳴って、宮多からのメッセージが表示された。
「昼、なんか怒ってた？　もしや俺あかんこと言うた？」
違う。声に出して言いそうになる。宮多はなにも悪いことをしていない。ただ僕があの時、気づいてしまっただけだ。自分が楽しいふりをしていることに。
いつも、ひとりだった。
教科書を忘れた時に気軽に借りる相手がいないのは、心もとない。ひとりでぽつんと弁当を食べるのは、わびしい。でもさびしさをごまかすために、自分の好きなことを好きではないふりをするのは、好きではないことを好きなふりをするのは、もっともっとさびしい。
好きなものを追い求めることは、⑦楽しいと同時にとても苦しい。その苦しさに耐える覚悟が、僕にはあるのか。
文字を入力する指がひどく震える。
「ちゃうねん。ほんまに本読みたかっただけ。刺繍の本」
ポケットからハンカチを取り出した。祖母にほめられた猫の刺繍を撮影して送った。すぐに既読の通知がつく。
「こうやって刺繍するのが趣味で、ゲームとかほんまはぜんぜん興味なくて、自分の席に戻りたかった。ごめん」
ポケットにスマートフォンをつっこんだ。数歩歩いたところで、またスマートフォンが鳴った。
「え、めっちゃうまいやん。松岡くんすごいな」
そのメッセージを、何度も繰り返し読んだ。
わかってもらえるわけがない。どうして勝手にそう思いこんでいたのだろう。
今まで出会ってきた人間が、みんなそうだったから。だとしても、宮多は彼らではないのに。
いつのまにか、また靴紐がほどけていた。しゃがんだ瞬間、川で魚がぱしゃんと跳ねた。波紋が幾重にも広がる。太陽の光を受けた川の水面が風で波打つ。まぶしさに目の奥が痛くなって、じんわりと涙が滲む。

⑧きらめくもの。揺らめくもの。目に見えていても、かたちのないものには触れられない。すくいとって保管することはできない。太陽が翳ればたちまち消え失せる。だからこそ美しいのだとわかっていても、願う。布の上で、あれを再現できたらいい。そうすれば指で触れて確かめられる。身にまとうことだって。そういうドレスをつくりたい。着てほしい。すべてのものを「無理」と遠ざける姉にこそ。きらめくもの。揺らめくもの。どうせ触れられないのだから、なんてあきらめる必要などない。無理なんかじゃないから、ぜったい。

どんな布を、どんなかたちに裁断して、どんな装飾を施せばいいのか。それを考えはじめたら、いてもたってもいられなくなる。

それから、明日。明日、学校に行ったら、宮多に例のにゃんこなんとかというゲームのことを、教えてもらおう。好きじゃないものを好きなふりをする必要はない。でも僕はまだ宮多たちのことをよく知らない。知ろうともしていなかった。

⑨靴紐をきつく締め直して、歩く速度をはやめる。

（『水を縫う』寺地はるな）

（注）

＊高杉晋作……一八三九～一八六七年。明治維新で活躍した人物。二十七歳で死んだ。

＊ナポリタン・マスティフ……イタリア原産の大型犬。短毛で垂れ尾。

＊ポメラニアン……ドイツ原産の小型犬。長毛で巻尾。

問1　傍線部①「もう、相槌すら打てなくなってきた」とありますが、この時の「僕」の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　宮多たちの島で昼食をとっていたが、いつの間にか仲間外れにされていたと気づき落ち込む心情。
イ　宮多たちはゲームの話で盛り上がっているが、自分は興味が持てないのでうんざりしている心情。
ウ　宮多たちが知らない単語を使っているので、理解できずにいる自分のふがいなさを恥じる心情。
エ　宮多たちの楽しそうな会話に入っていけず、時間をもてあますことになってふてくされている心情。
オ　宮多たちと友だちづきあいを続けたいが、よく知らない話題に自分だけついていけずに焦る心情。

問2　A ～ E に当てはまる言葉として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　おどおど　　イ　ふと　　ウ　ぎょっと　　エ　きゅっと　　オ　ぽかんと

問3　傍線部②「俺、見たい本あるから席に戻るわ」とありますが、「僕」がこのように言った理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　一人で過ごす昼食の時間を楽しんでいるくるみを見て、自分も一人でしたいことをして過ごそうと思ったから。
イ　笑顔で弁当を食べるくるみへの好意に気づき、一人でいても過ごせる自分を彼女に見せたいと思ったから。
ウ　ゲームをしない自分にもわかる話をしない宮多たちの無神経さに触れ、彼らとは距離を置こうと思ったから。
エ　友だちを作らずに堂々としているくるみの様子が目に入り、宮多たちにこびる自分が情けないと思ったから。
オ　宮多たちが好きなゲームの話をするのを聞いていて、読みたい本への思いを我慢したくないと思ったから。

問4　二重傍線部a「食い入るように」、b「上気している」の本文中での意味として最も適当なものをそれぞれ後の語群から選び、記号で答えなさい。

a　食い入るように

ア　慎重(しん)に　　イ　黙々(もくもく)と　　ウ　熱心に　　エ　すばやく　　オ　しばらく

b　上気している

ア　ゆるんでいる　　イ　赤くなっている　　ウ　ふくらんでいる

エ　すき通っている　　オ　こわばっている

問5　傍線部③「耳たぶをちりっと掠めた」とありますが、この時の「僕」の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　宮多たちのグループから急に離(はな)れてしまったことを後悔(こうかい)している。

イ　自分の手つきを真似しながら笑われたことにひどく傷ついている。

ウ　大声を出して周りの注目を集めてしまい恥ずかしく思っている。

エ　自分を笑った生徒が視線を逸らしたのを見てせいせいしている。

オ　自分がばかにされているように感じて居心地(いごこち)が悪くなっている。

問6　傍線部④「集団の中でもてはやされる個性なんて、せいぜいその程度のものだ」とは、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　個性を大切にしたいと言う一方で、見分けがつかないくらい周囲と同化することが期待されているということ。
イ　同じ性質のもの同士であっても違いがあれば戸惑うのに、気質が異なる場合はなおさら混乱をまねくということ。
ウ　ある集団の中ではごく一般的な性質であったとしても、別の集団の中では目立ってしまいかねないということ。
エ　同類だと感じる範囲内での違いは好まれるけれど、そもそもの方向性が違う場合はいやがられるということ。
オ　集団内では互いに似た存在であるという安心感が重要で、違いが目立つ人と付き合うのは好まれないということ。

問7　傍線部⑤「これはたぶん磨かへん」とありますが、「くるみ」はなぜそう判断したのですか。四十五字以内で分かりやすく説明しなさい。

問8　傍線部⑥「あまりに唐突でそっけなかった」とありますが、ここから「くるみ」のどのようなようすが分かりますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　ばかにされた「僕」が平気そうだったので、それ以上の興味を失っている淡白なようす。
イ　「僕」が短い質問をするだけで、石にそれほど興味を示さないことを不満に思うようす。
ウ　自分の趣味に引け目を感じることもなく、それを押しつけることもしない自然なようす。
エ　傷ついているはずの「僕」を一人にしてあげようと、さりげなく気を遣っているようす。
オ　自分が興味を持っていることには熱心だが、他人のことにはさっぱり関心がないようす。

問9　傍線部⑦「楽しいと同時にとても苦しい」と思う理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　自分は気遣いをせずにすむので楽しいが、同時に周りからもてはやされる個性であることも多く、注目されたり仕草を真似されたりする心もとなさに耐えなければならないから。

イ　自分の思いに素直になれるので楽しいが、同時に周りから的外れな感想を聞かされることも多く、思いを正しく理解してもらえないわびしさに耐えなければならないから。

ウ　自分は仲間と距離が縮まるので楽しいが、同時に周りから「わかるわかる」と簡単に言われることも多く、独自の楽しさがそこなわれるさびしさに耐えなければならないから。

エ　自分の心に正直に生きていけるので楽しいが、同時に周りから自分の楽しさを理解されないことも多く、孤独になってしまう心もとなさに耐えなければならないから。

オ　自分の世界を思い通りに変えられるので楽しいが、同時に周りから距離を取られてしまうことも多く、再び世界を元通りにするというわびしさに耐えなければならないから。

問10　傍線部⑧「きらめくもの。揺らめくもの。」とは、どのようなものですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　さまざまなものが影響を及ぼすことで、ほんのひととき存在するもの。

イ　自分の目で見なければ意味がないのに、直視することができないもの。

ウ　自分自身を信じていれば見えてくるが、疑ったままでは見えないもの。

エ　その存在を確かめる方法がないために、存在しないように感じるもの。

オ　迷いが生じていると自分の前に現れて、心の奥の本音を映し出すもの。

問11　傍線部⑨「靴紐をきつく締め直して、歩く速度をはやめる」とありますが、ここでの「僕」はどのような気持ちだと考えられますか。解答欄に合う形で、七十字以内で説明しなさい。

三　次の傍線部のカタカナを漢字に書き改めなさい。

① 歴史的なできごとのイギを学ぶ。
② 与えられたニンムを果たす。
③ デンショウされた文化。
④ 目的をタッセイする。
⑤ 同じケイトウの色を使う。
⑥ エイセイを打ち上げる。
⑦ マニュアルをサンショウする。
⑧ 間違いをシュウセイする。
⑨ オーケストラのシキをする。
⑩ 地震に強いコウゾウの家。

2026B1

↓ここにシールを貼ってください↓

国語　解答用紙

受験番号							
名前							

一

問1

問2

問3

問4

問5 i → ii → →

問6

問7

問8 A B C D

二

問1

問2 A B C D E

問3

問4 a b

問9

問10

問11

三

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

問5

問6

問7

問8

問9

問10

問11 宮多が自分の趣味を素直に評価してくれたことで、気持ち。